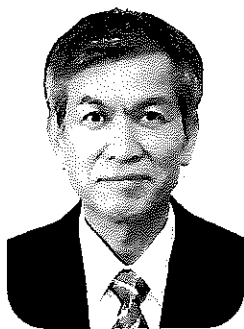


令和元年度を振り返って

栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校長
松本良雄



月日が経つのは早いもので、今年度もあとわずかとなり、校長先生方におかれましては、卒業式などの年度末行事の準備や、次年度の学校経営方針の作成に向けて、多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

今年度は新学習指導要領の全面实施を2年後に控えるなか、「特別の教科 道徳」が始まりました。各学校においては、研究・研修に励んだ年でもありました。また、昨年度策定された「部活動の在り方に関する方針」、「学校における働き方改革推進プラン」のもと、適切な部活動運営や、教職員の時間管理、健康安全管理等を行い、管理職としての役割の重要性を改めて実感することとなりました。

さて、5月に令和時代が始まり、校長会も気を引き締めながら各事業に取り組んできました。

11月22日にホテルニューイタヤにおいて関東5県の会員の皆様をお迎えして、「第55回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会栃木大会」を無事開催することができました。とくに2つの実践研究発表では、野木町立野木第二中学校、日光市立湯西川中学校の先生方にご発表をいただきました。また、充実した調査研究、研究協議となり、今後の修学旅行に役立つものとなりました。本大会の開催に向け、長い期間に渡り企画・準備をいただいた運営委員をはじめ、校長先生方に深く感謝申し上げます。

その他、本会の主な事業として、総会並びに研修

会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、各専門部研修会、県教育長と校長会長との懇談会（6月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、理事協議員研修会（2月）等を実施しました。

さらに、9月には「第40回栃木県中学校長会研究大会」を3年ぶりに実施し、下都賀地区及び塩谷南那須地区校長会の先生方に発表をいただきました。また、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官小栗英樹氏から「新学習指導要領の完全実施に向けて」と題してご講演をいただきました。

今年度の協議事項としては、中学校教育75周年記念事業の内容及び組織について協議されました。

結びに、校長会の役員・理事をはじめ、154名の栃木県中学校長会の全ての校長先生方、事務局の皆様、一年間本当にありがとうございました。また、この会報を発行するに際し、原稿をお寄せいただいた校長先生方、大変お忙しい中、ご執筆くださりありがとうございました。

着任の挨拶で、今年度の校長会としては、「令和」に込められた思いのように、校長会さらには各学校の教員が心を寄せ合いながら、新たな学校文化を育ていけるよう、会の組織力をさらに高め協力体制を基盤として、新時代にふさわしい校長会を実現していきたいと決意表明をしました。どこまで実現に近づけることができたか分かりませんが、皆様に支えられここまでたどり着くことができました。最後に、栃木県校長会のために、ご支援とご協力くださった全ての皆様方に心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

事務局だより

平成から令和へと時代が移り、10月には消費税率が10%となるなど社会が変化する中、県内に大きな被害をもたらした台風19号は、自然災害の脅威への認識を改めざるを得ませんでした。校舎や校庭等に被害を受けた学校のご労苦を拝察します。

さて、松本良雄会長のもと事業計画の円滑な推進に当たりましては、会員の皆様のご支援・ご尽力に改めて深く感謝申し上げます。特に、今年度より研

究振興基金への拠出を再開しました。本会研究・研修体制の充実に向け、計画的に運用いたします。

また、本会中学校教育75年記念事業に向け、効率的な企画・準備に会員の皆様とともに努めてまいります。

事務局においては、4月に新事務局員を迎え、新たな体制で仕事を進めております。会議や研修等で県教育会館にお越しの際には、皆様ぜひお気軽にお立ち寄りください。

（事務局長 半田 均）

県教委との教育懇談会

総務部長 野宮 隆
(宇都宮市立鬼怒中学校長)

令和元年8月2日(金)、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教育委員会と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。小学校長会16名、中学校長会18名で臨み、県教委側は池田聖教育次長様はじめ18名の関係者の皆様に出席いただきました。中学校長会の松本良雄会長、池田聖教育次長の挨拶の後、総務部長の野宮隆宇都宮市立鬼怒中学校長が提案事項を説明しました。

【中学校長会提案事項】

1 教職員人材確保と教職員配置の改善

- (1) 正式採用教員の確保(欠員補充の段階的解消、臨時的任用教員の採用の促進、特別選考枠の充実)
- (2) 学力向上実践、児童生徒指導、不登校等の対応のための教員の加配拡充
- (3) 免許外教科指導及び臨時免許状対応解消のための非常勤講師の増員・配置
- (4) 教育相談体制の充実・強化を図るためのスクールカウンセラーの勤務日の拡充及び資質の向上
- (5) 特別支援学級担当教員の計画的な育成と本採用教員の配置推進・通級指導担当教員の増員
- (6) 障害者差別解消法の施行に伴う、障害のある生徒が在籍する学級への非常勤職員の増員

2 確かな学びを育む教育の充実

- (1) 新学習指導要領の円滑な実施と教職員の資質

向上のための諸研修の充実

- (2) 「とちぎっ子学習状況調査」に基づく学力向上に係る施策の充実

3 学校の働き方改革推進のための環境整備

- (1) 働き方改革の推進を踏まえ、「チームとしての学校」実現に向けた専門能力スタッフの配置の促進
- (2) 負担軽減のためのスクール・サポート・スタッフの配置

4 アレルギー対応のための学校栄養職員の適正な配置

- (1) 栄養職員の配置基準の引き下げ、及び食物アレルギー対応の充実を期した栄養職員の配置増

5 運動部・文化部活動の在り方に関する方針に基づく取組の推進

- (1) 学校教育法施行規則の一部改正に伴う、部活動指導員増員のための予算の拡充

6 その他

- (1) 新しい教職員評価システムの検証の推進
- (2) 地域連携教員の週休日におけるサービスの明確化と業務の特殊勤務手当等支給の対象化
- (2) 研修・出張旅費の確保

(3) 再任用制度の

充実と再雇用の

場の確保と改善

県教委側からは

本県の現状や展

望を示しながら、

国への要望や財政の許す限り努力する旨回答が

あり、有意義な懇談会となりました。



県教委・高等学校長会との懇談会

進路対策部長 原口 真一
(日光市立足尾中学校長)

令和元年10月3日(休)、栃木県教育会館において県教委、県高等学校長会と県中学校長会との懇談会が開かれ、中学校長会から高校入試等に関して改善要望をしました。また、それぞれの立場や現状を踏まえた上で、協議及び情報交換を行いました。

なお、今年度は、これまででも要望してきたことの中で、明確な理由の元に「できない」と回答されてきたものについては原則として外し、新たに出てきたもので緊急性、重要性の高そうなもの、あるいは、少しの工夫で何とかかなりそうなものを優先事項とし、前段で要望しました。

更に、一度は「できない」とされたものでも、これまでに長年に渡り根強く要望されてきたものは、それだけ切実な内容であると捉え、時代や状況の変化によって今後可能になることもあるかもしれないとの希望も含め、後段にて要望しました。なお、ここには「単なる質問事項」も含めました。

【改善に向けて動ける旨の解答をいただいた項目】

1 一日体験学習について

- (1) 県教委主導で「申込形式統一」を推進する。
- (2) 実施日程の調整は、中文連会長と中体連会長が高等学校長会と連携を図って、行事を考慮しながら決定していく。
- (3) 当日、個人単位での受付対応は難しいが、炎天下で待たせることなく、来た時点で、体育館等へすみやかに誘導、人数確認は屋内で実施する。

(中学側でも同一歩調の指導をお願いしたい)

2 出願手続きについて

- (1) 手続きに時間がかかる高校の具体名を県教委に伝達、できる限りの改善をお願いする。
→書類提出後、他の学校を回るなどの対応ができないか、今後検討(研究)していく。

実際にはこの他にも多くの内容について話し合うことができ、相互理解の有意義な場となりました。詳細は地区校長会等を通してお伝えしていきます。

地区校長会だより

上都賀地区中学校長会

上都賀地区中学校長会は、鹿沼市10校と日光市15校の計25校で構成されています。

ご存じのとおり、市町村面積全国ランキング3位の日光市と鹿沼市を合わせますと栃木県面積のちょうど3割を占めることとなります。本地区は、その広大な場所に各校が点々と散らばっており、極小規模校から大規模校までが、それぞれ様々な特色を成しながら、個性ある豊かな教育活動を行っております。

本会は、「学校経営に必要な諸般の事務について調査研究するとともに会員相互の親睦を図り、もって教育の振興に努める」ことを目的としており、本地区は元より、栃木県、日本の教育の目的に沿って、子どもたちへの教育にあたっています。

本年度の研究主題は、①「危機管理、サービスの厳正、不祥事防止等に関わる研修の深化」、②「令和4年度関東甲信越ブロック埼玉大会での発表に向けた研

究テーマの検討」とし、昨年度の全県的な課題への考察と、平成30年度の関プロ栃木大会での成果を引き継ぐよう意図されました。

本会は、距離的に離れている25名の会員が年3回の定例会に会し、報告・協議・情報交換・研修を重ねると共に、県中学校長会・全日本中学校長会との連携を進め、その充実を図っております。

例年、第1回定例会では、地区小学校長会との合同の研修を実施しており、小中の足並みを揃えています。今年、第2回研修会では、前鹿沼北中校長の吉田氏を迎え、危機管理の現実を学びました。また、平成30年度までの研究内容であった、「生徒指導」を鹿沼市が、「進路指導」を日光市が今後も深めていくこととなりました。

そして、本地区のみならず、大きな視野で教育を捉え、「未来に生きる日本人のために何ができるか」という視点を常に保持し、全会員の協力を得て会を運営し充実させていきたいと考えております。

[日光市立藤原中学校長 山口 亨一]

小山市中学校長会

小山市中学校長会は、中学校10校と義務教育学校1校の計11校で構成されています。県中学校長会、下都賀地区他市町の校長会と連携しながら、「市としての共通理解・実践のもと、より良い学校運営ができるよう互いの意思疎通を図りながら、各会員の資質・能力の向上を目指すこと」、「各校の特色を生かしつつ、情報交換を密にすることで、市を挙げて教育活動の改善・充実を図ること」を基本方針としています。

研修会は、定例会と全体会及び小・中班別で、月1回程度実施しています。今年度の研究テーマは、「魅力ある学校づくり」で、大きく2点研究を進めています。

1点目は、教職員の資質・能力の向上を目指し、「小山スタンダード（OS）」を作成・活用することです。「小山スタンダード（OS）」とは、小山市の教職員としてあるべき姿を、3つの領域（勤務について、児童生徒への対応について、学習指導について）に分け、具体的に20項目として表したものです。

今年度は、昨年度までのものから、焦点化とわかりやすくなるよう見直し、改善を図りました。このOSを年2回、全教職員を対象にアンケート調査として実施し、結果をまとめ、考察します。それを、全教職員に提示し、小山市の教職員として徹底すべきことの意識化を図っています。こうすることで、不祥事防止・事故防止の抑止力としての効果も期待できます。

2点目は、校長として、どのように生徒の学力向上を図るかを研究しています。これは、今年度新たに始めたことであり、11校を3グループに分け、方策等を検討し、実践しています。

大規模校から小規模校、生徒数が増加している学校、少子化が進む学校等、学校・地域の実態が異なりますが、校長会の研修を進めることにより、様々な課題に対し、多角的・多面的に考え、視野を広げる良い機会となっています。今後も、小山市校長会として地に足の付いた取り組みをしていきたいと考えています。

[小山市立大谷中学校長 齋藤 真樹]

栃木市中学校長会

栃木市は、栃木県の南部に位置し、人口約16万人の市です。本市では、名誉市民である山本有三先生の「たったひとりしかない自分を、たった一度しかない一生を、…（『路傍の石』）」の言葉に代表される、「生命尊重・人権尊重」と「絆」を重んじる精神を教育の基本理念にしています。

小学校30校、中学校14校、合計44校で栃木市校長会を組織しています。毎月行われる市教委主催の定例校長会議の後に、市校長会全体研修会、市校長会小中学校部会別研修会を開催しています。ここでの中学校部会の研修会が栃木市中学校長会の主な活動となります。部会運営のキーワードは「和気あいあい」で、「①同僚性の発揮、②組織的な対応、③情報収集・発信力の強化、④最終判断」ができるように情報交換や協議を重ねています。例えば、部活動の在り方や働き方改革について、有意義な意見交換

が交わされ、共通理解を図ることができました。

今年度は栃木市校長会研修会として、栃木ゴールデンブレース監督の寺内崇幸氏を講師に招き、講演会を開催しました。小学校・中学校・高校時代の様子から、社会人野球としてJ R東日本でプレイし、読売ジャイアンツで活躍、そして、監督として栃木ゴールデンブレースをBCリーグ東地区で優勝させるまでの様々な経験をお聞きすることができました。また、寺内氏が小学4年生から駅伝大会のアンカーを務め、市の大会で優勝に貢献したという小学校時代の恩師（現校長）からの話もあり、講演に花を添えました。特に、監督としてどのようにチームをまとめたかなどのは、校長が学校で教職員に対してどのようにリーダーシップを発揮していけば良いのかの参考になる面が大いにあり、実に有意義な研修会となりました。今後も、栃木市中学校長会ならではの活動を行っていきたいと思います。

〔栃木市立西方中学校長 関口 哲夫〕

私の学校経営

学校教育目標の具現化に向けた取組

前 上三川町立上三川中学校長 氷室 清
(上三川町教育委員会 教育長)

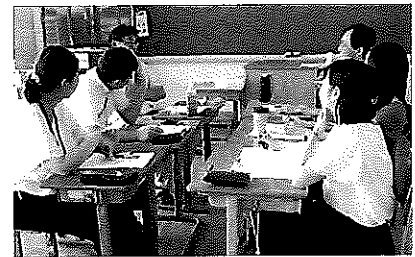
本校に着任した当時、これからの社会や学校の在り方を考え、学校教育目標を「学校が目指すべきゴールイメージ」が描きやすいものへと変更するべく職員と検討し合いました。その目標具現化に向け、次のような取組を実践してきました。

- 1 これからの時代に求められる生徒像の明確化
- 2 教育課程のスリム化及びイベントの精選
- 3 検証改善サイクルのシステム構築
- 4 学年組織（横）＋課題解決型組織（縦）づくり
- 5 人材育成の視点の位置づけ
- 6 生徒の学びを連続的に捉える視点・機会の確保

4の組織改善では、学校の持つ課題解決に取り組む校務分掌型の組織を構築し、学年の枠を超えた縦断的なメンバーの編成をしました。また、そのメンバー間での課題解決に向けた協議の場が定期的に持てるよう、教育課程に位置づけました。合わせて、課題についての協議ですから短期目標と学校評価が

連動する成果指標を位置づけ3のシステム構築につなげました。5の人材育成の面とも絡みますが、リーダーとして中堅教員を指名し、年齢に適した役割責任を与えました。それは、ベテラン・中堅・若手が協同で学校の課題解決に取り組めるようにすることで、学校教育の風土や文化の伝承を確かなものにしようと思ったからです。

6の点について、学区内2小学校の校長と相談し、小・中学校の教職員相互、児童生徒の発達段階と学習の連続性を意識し、義務教育9年間を見通した教育を行うことができるよう、2年前から小中



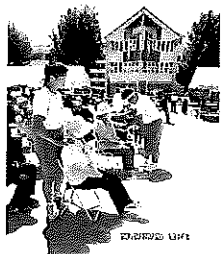
合同の研修会を実施しています。また、平成29年度から導入している学校運営協議会においても、3校の委員が集い、地域とともに学区内の児童生徒たちをどう育てていくのか、共通理解・実践につなげています。今後の継続にも大いに期待しているところです。

教育活動スローガン

「人とつながり、ふるさととつながり、
未来とつながる」の充実を目指して
下野市立南河内中学校長 倉井典子

本校は、令和4年度の義務教育学校開校に向けて学校・保護者・地域との協働による小中一貫教育と開校準備を進めている。学区内小中学校4校共通の教育目標は、「ふるさとを愛し、夢に向かって互いに高め合う子」であり、仲間や地域とのつながりを大切にしながら自分自身を見つめられるよう「人とつながり、ふるさととつながり、未来とつながる」をスローガンに掲げた。

1 地域のお年寄りとのふれあい



体育祭では、毎年、地域のお年寄りを招待して、肩・腕・手もみ種目がある。お年寄りと話しながらゆったりとした時間を過ごす。また、美術部によるデイサービス施設への訪問等を実施するなど、思いやりの心を育てている。

2 上級生・下級生間や仲間とのつながり

自問清掃、体育祭応援団、合唱練習等を縦割り

で実施、また各学級・部活動でも、仲間とつながることを意識させ、辛いことも乗り越え達成感を味わうこと等で、生徒の人間関係構築力を高めたい。

3 地域貢献活動

前期は部活動単位、後期は学級単位で、生徒自身で考えて地域貢献活動を行っている。「自分が家族や地域を支える」「自分達で自分達の町を作る」という意識を持たせた活動



を目指している。この活動を中心に自主的活動を充実させ、自己有用感や社会性を育み、夢を描かせたい。

4 小中学校の交流

学区内3小学校に中学生が出向き、自問清掃活動や児童生徒集会を行っている。小学校の運動会の手伝いに、ボランティアで参加する生徒もいる。

中学校区で年間6回、全教職員が一堂に会し、各部会ごとの様々な話し合いや授業研究会を行っている。小中で目指す子ども像・学校課題等を共有し、「つながる」をキーワードに、積極的に交流し、小中の教職員のつながりも確実に深まってきた。

研究指定校としての取組を通しての学校経営

足利市立山辺中学校 関根景子

足利市は、栃木県南西部に位置する、日本最古の学校「足利学校」のあるまちです。人口は15万人弱、小学校22校、中学校11校、計33校で足利市小中学校長会及び中学校長会を組織しています。

その中でも、まちの商業地区に位置する山辺中学校は、生徒数619名の大規模校で、54名の職員が力を合わせ、「前進山辺中」を合い言葉に教育活動に取り組んでいます。

本校は、平成30年度より、文部科学省『主体的・対話的で深い学び』の推進事業における実践協力校として2年間の指定を受け、実践を続けてきました。まずは、「先生が変われば生徒が変わる」の考えのもと、教師の資質・能力の向上を重視する方針で、「先進校への訪問研修」を計画的に行いました。そこで学んだことを本校に合った形で「山辺中のユニバーサルデザインの視点」とし、効果的なヒントカー

ドを作成するなど、誰もが主体的な学びになるような積極的な支援をおこなったり、視覚的に注意が散漫にならないような掲示物の工夫を行ったりしてきました。

また、授業改善では、「自分の考えを書く指導」を重視しました。教師は望ましい生徒の表現を予め考えて授業に臨むとともに、本時のゴールを意識して授業を行うことで、学習評価の充実からの授業改善を図りました。「振り返り」については、特に表現内容にこだわるようにしました。

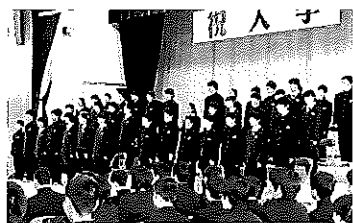
さらに、「主体的・対話的で深い学び」を実現したときの生徒の姿を設定し、具体的に、授業のどの場面でどのような手立てを取るのかを考えました。研究指定をいただいたことを職員の資質向上のまたとないチャンスと捉え、実践に取り組んで参りました。何より、職員が一つの方向を向けたこと、子どもたちのためにみんなで楽しんで取り組めたこと、の二点が、校長として大きな収穫となりました。

新任校長の一言

新任校長として

益子町立田野中学校長 大塚 昌哉

4月は緊張の連続だった。何も見えない、何も知らない4月だった。



新任式、始業式、入学式、保護者会、その都度、校長あいさつ、校長式辞等の校長の話す場面が用意された。話し下手、あがり症の私にとっては、自分の考えを伝えるのは最も苦手なことであった。

しかし、多少なりともこの不安を取り除いてくれたのは子どもたちであった。子どもたちとの初めての対面は、春休み中の4月だった。校舎の隅に車を止めて玄関までの道のりを歩き始めると、部活動を行う生徒たちから「おはようございます」のあいさつ。それがグラウンド中から一斉に聞こえた。私は、その大きく元気なあいさつの声に圧倒された。そして「感激」した。このような子どもたちと学校生活

を送れると思うととてもうれしくなった。

新任式は、子どもたちとその様な出会いがあり、緊張感もあったが、うれしさの感情に溢れていた。始業式も同じような感覚で臨むことができた。生徒たちは、私の話真剣に耳を傾けてくれた。そして入学式。この場合は、来賓、保護者等の参加があり、状況が違う。今までにないような緊張感を味わった。それから、事ある毎に校長としてのあいさつが要求された。とにかく必死だった。4月の最後には、保護者会総会があった。あいさつは、総会、各学年、夜の歓送迎会と、その日だけで5回あいさつをしなければならなかった。原稿は考えたが、それを一言一句読むことはできなかった。それでもなんとか無事終えることができた。

保護者会終了で、緊張感に溢れた4月がやっと終わった。疲れ果てていたが、何ともいえない充実感に満ち溢れていた。それは、私にとって忘れられない4月になった。

新任校長として

那須塩原市立高林中学校長 江連 宏昌

4月1日校長としての辞令を受け、新しい学校に赴き新しい生徒たちに日本一の校歌合唱で迎えられました。普通ならこのような書き出しになるのですが、私の場合は以前教務主任として2年、昨年度は教頭として勤務してきた学校ですので、生徒や学校・地域の良いところを理解した上で生徒数92名、教職員22名で本年度のスタートをきることができました。本校は、校訓「共に生きる～友との共生、地域社会との共生、自然との共生～」の下、保護者・家庭・地域社会との連携・協力により地域の中で共に育つ学校として充実・発展をしてきました。冒頭にあげた校歌は混声4部合唱で終曲が付いている素晴らしい歌です。学校ホームページに音声ファイルを公開してございますので皆様に御紹介します。

本校の特色ある教育活動として、目指す生徒像の一つである「人・郷土・学校を愛する生徒」の実現

のため、自然や地域の人々と触れ合う体験活動を取り入れています。その一つに「高林そばフェスタ 高中」という学校行事があり、今年度20回目を迎えました。地域の特産であるそばを打つ体験をするとともに、行事に合わせて開催する高林地区の敬老会に参加する高齢者の方々に生徒が打ったそばを振る舞っています。また、総合的な学習の時間において地域農業と食生活にテーマを絞った課題解決学習「そばゼミ」



を展開しています。学習成果の発表会時には地元のテレビ局や新聞社から取材を受け、本校の取組が県内に紹介されました。このような活動に取り組みながら、これまで先輩方が積み重ねてきた実績を基盤に、教職員一丸となって、より一層保護者・地域社会から信頼される学校を築き上げ、校訓である「共に生きる」の実現を図っていきたいと思います。